

右ハ既ニ發電ヲ開始セル水力地點ニ於テハ現在ノ設備ニ依リ未タ發電ヲ開始セサル水力地點ニ對シテハ總テ平水量ヲ使用スル場合ノ年平均馬力數ナリトス。即チ現時ノ經濟關係ニ於テ本邦ノ全水力地點ヲ最有利ニ開發シタル場合ノ最大設備ハ約一千三百六十萬馬力ニシテ之ニ對スル年平均馬力數ハ約一千百七十萬馬力ニ達スルモノナリ

三、全水力ノ比較 敍上各種ノ馬力數ヲ總括シテ一覽的ニ表示スレハ左ノ如ク平水時ノ最大馬力數ハ渇水時ノ約二・二〇倍ニ相當シ既設ノ發電設備ヲ變更改廢セサル場合ニハ約二・二三倍ヲ算シ其ノ年平均馬力數ハ夫々渇水時ニ於ケル馬力數ノ約一・八六倍及約一・八三倍ニ當ル

地點數	査定	備考
渇水時 二八三三	六四三〇〇〇	一〇〇
最大 一四〇〇、〇〇〇	二、二〇	水力地點ノ全部ニ對シ渇水量ヲ使用スル場合
年平均 一一、九三三、〇〇〇	一・六六	水力地點ノ全部ニ對シ平水量ヲ使用スル場合
平水時 二八三三	最大 一三、六四三、〇〇〇	二・二三
年平均 一一、七三三、〇〇〇	一・九三	既設ノ水力ハ其ノ設備ニ對スル最大水量ヲ使用シ其ノ他ハ悉ク河川ノ平水量ヲ使用スル場合

然レトモ茲ニ掲記セル馬力數ハ本調査期間内ニ於テ實測シタル河川流量ノ平均數ヲ基礎トシテ算定シタルモノナルヲ以テ之ヲ數十年ノ河川流量變化ノ狀況ニ對照セハ必スヤ幾分ノ誤差ヲ生スヘシ、蓋シ本調査ノ時期ハ大正七年乃至大正十一年ニシテ比較的降水量ノ多量ナル期間ニ相當シ該期間ノ河川流量モ亦永年間に於ケル平均數以上ヲ示セルモノナレハ是等ノ資料ニ依リテ査定シタル本馬力數モ亦平年ニ比シ幾分過大ナリト推定シ得ルモノナリ

第八章 氣象調査

第一節 調査ノ方法

河川流量ノ變化ハ主トシテ其ノ流域内ニ降下スル雨雪ノ量ニ起因スルモノニシテ殊ニ水源地カ海岸ニ接近シ地勢一般ニ急峻ナル本邦ノ如キニアリテハ山嶽地方ノ降水量ハ直ニ下流河川ノ流量ヲ變動セシメ水利治水等ニ影響ヲ及ホスコト甚大ナリ、故ニ水力事業ノ計畫ヲ確立シ之カ工事ヲ施行スルニハ必スヤ山嶽地方ニ於ケル雨量其ノ他ノ氣象狀態ヲ精査考究セサルヘカラサルナリ。而シテ此

ノ目的ヲ以テ氣象ノ調査ヲ行フ方法種々アリト雖之ヲ分チテ次ノ二種ニ大別スルコトヲ得ヘシ即チ其ノ一ハ河川流量ニ影響アル總テノ氣象ノ調査ヲナスモノニシテ流域内ニ於ケル降水量ノ調査ヲ行フハ勿論減損水量ノ主因タル蒸發量ヲ調査シ更ニ之ニ間接ナル影響ヲ有スル氣溫濕度風向風力及雲霧等ノ氣象状態ヲ調査スルモノナリ其ノ二ニ於テハ單ニ水源地ニ於ケル降水量ノミヲ調査シ之ヲ附近ノ他ノ流域ニ於ケル精密ナル調査ト比較對照シ以テ河川流量ト降水量トノ狀況ヲ推知スルノ資料トスルモノナリ

氣象ノ調査ハ既ニ府縣測候所ニ於テ之ヲ行ヒ長期ニ互リテ其ノ結果ヲ發表セルモノアレトモ河川ノ水源部即チ山嶽地方ニ於テハ其ノ數甚タ多カラズ而シテ本邦ニ於テ此ノ種ノ調査ヲ行フモノニ偶々農商務省ノ設置ニ係ル森林測候所アリテ其ノ調査資料ハ本調査ノ目的ニ對シ絶好ノ參考資料タリト雖該測候所ノ位置ハ多ク國有林内ニ存在シ其ノ數甚タ僅少ナル憾アリ故ニ本省ニ於テハ前記二種ノ方法ヲ折衷シ是等測候所ノ調査ノ及ハサル山間僻地ニシテ特ニ水力利用上必要アリト認ムル所ニハ新ニ觀測所ヲ設置シテ氣象ノ概況ヲ調査シ其ノ間ニ降水量ノミヲ

觀測スル雨量觀測所ヲ配置シテ之ヲ補足シ以テ河川流域内ニ於ケル氣象調査ノ一層完全ナランコトヲ期シタリ凡ソ降水量ノ河川流量ニ及ホス影響タルヤ其ノ關係頗ル複雑ニシテ且間接ナルモノアリ假令氣象ノ一般ニ互リテ精細ナル調査ヲ行フトスルモ單ニ之カ變化シ狀況シミニ依リテ河川流量變化ノ一般ヲ推知スルコトハ容易ノ業ニアラス況ヤ雨量觀測ノ如ク氣象ノ一斑ヲ觀測スルノミナル場合ニ於テハ其ノ目的ヲ達スルコト極メテ困難ナリ然レトモ本調査ノ如ク流量ノ比較研究ヲ行フ場合ニ於テハ氣象一般及降水量ノ調査ハ極メテ重要ナル參考資料ニシテ例ヘハ相接近セル二河川ノ流量ヲ比較スル場合ニ於テ甲川ニハ流量ニ關スル完全ナル調査アルモ乙川ニ於テハ其ノ調査不完全ナルトキ若シ兩川流域ニ於ケル地勢地質林野其ノ他ノ狀況近似スルニ於テハ甲乙兩川ノ流域ニ於ケル降水量其ノ他ノ氣象状態ヲ比較シ以テ乙川ノ流量變化ノ概要ヲ推知スルコトヲ得ヘシ又一河川ノ流量ノ既往及將來ニ於ケル變化ヲ推知セントスル場合數年間流量ノ實地調査ヲ行ヒ洪水量平水量濁水量其ノ他各種ノ流量ヲ綿密ニ決定スルモ是等ノ流量ハ該調査期間内ニ於ケルモノニシテ其ノ前後ノ期間ニ於テ果シテ夫レ以上ノ變化

ナキヤハ保シ得ヘカラサルナリ。斯ノ如キ場合ニ於テ該河川ノ氣象調査ノ結果ヲ附近測候所ニ於ケル永年ノ記錄ト對照考察セハ其ノ變化ノ狀況ヲ推知シ從ツテ河川流量ノ變化ヲ推定シ得ヘク更ニ將來ニ於ケル變化如何ヲモ窺知スルコトヲ得ヘシ

一觀測所ノ配置 氣象ノ調査ヲ行フ觀測所ハ府縣測候所ノ施設ニ係ルモノヲ始メトシ其ノ他ノ官署ニ於テ設置セルモノハ成ルヘク之ヲ利用シテ其ノ資料ヲ蒐集スルコトトセルモ尙之ヲ補足センカタメ該調査ノ普及セサル地域ニ對シ特ニ本省ニ於テ觀測所ヲ設置シタルコトハ前述

ノ如ク其ノ詳細ハ第五卷雨量及氣象觀測所一覽表ニ示スカ如シ。而シテ調査ノ進捗ニ伴ヒ當初本省ニ於テ設置セシ觀測所ニシテ其ノ位置不適當ト認メタルモノ又ハ觀測人ニ適當ナル者ナキタメ結果良好ナラス豫期ノ成績ヲ舉クル能ハサリシモノ等アリシヲ以テ屢觀測所ノ位置ヲ變更シ又ハ之ヲ廢止シタルモノアルノミナラス調査上必要ヲ生シタル場所ニハ後年新ニ觀測ノ設備ヲ施シタルモノアリ又他官署設置ノモノニ就テモ屢其ノ利用數ヲ増減セリ。今各年末ニ於ケル觀測所ノ數ヲ示セハ左表ノ如ク現在ニ於テハ本省ノ設置ニ係ルモノ雨量觀測所八四箇所、氣

雨量觀測所數

年次	本省設置		他官署設置				
	大正七年	大正八年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年
札 幌	六	八	一六	一六	一六	一六	一五
仙 臺	一四	一八	一八	一八	一五	一五	一五
東 京	五	一七	一四	一四	八六	八五	八五
名 古 屋	五	一七	一四	一四	一〇八	七一	七四
大 阪	四	六	六	六	二六	二六	二五
熊 本	四	一〇	一〇	一〇	一七三	七二	五三
計	三四	七九	八四	八四	六八六	三〇三	二九二

氣象觀測所數

縣	大	名	東	仙	札	本 省 設 置					他 官 署 設 置				
						大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年
熊	一	一	一	一	一	六	七	七	七	七	四	三	三	三	三
大	一	一	一	一	一	五	六	六	六	六	一	一	一	一	一
名	一	一	一	一	一	八	八	九	九	九	二	二	二	二	二
東	三	三	三	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
仙	八	八	八	八	八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
札	三	三	三	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	一八	一八	一八	一八	一八	六四	七〇	七三	七三	七三	四〇九	三六八	三六二	三三三	三三四

象觀測所七三箇所、他官署ノ觀測所ヲ利用セルモノ雨量觀測所二九五箇所、氣象觀測所二二四箇所ニシテ其ノ總計ハ雨量觀測所三七九箇所、氣象觀測所二九七箇所ナリ

本邦ハ到ル所山嶽重疊シ地形錯綜セルヲ以テ氣候ノ地方的變化著シク降水量ノ如キモ地方ニ依リ甚シキ差異アリ從ツテ氣象狀態ノ調査ヲ行フヘキ觀測所ハ成ルヘク多ク之ヲ配置セサルヘカラサルハ勿論ナレトモ河川ノ最上流部ニアリテハ一般ニ住人乏シク全ク觀測者ヲ求ムル能ハサル所少カラサリシタメ止ムヲ得ス氣象ノ調査ヲ行ハサリシ所アリ。今各水系ニ就キ其ノ最下流ノ水力地點ノ流域面積ト其ノ域内ニ存在スル觀測所ノ數トノ割合ニ示セハ左表ノ如シ

水系	最下流水力地點ノ流域面積	觀測所數		觀測所一箇所當流域面積	
		雨量	氣象	雨量	氣象
札幌局區内	二二六〇	二	一	一〇九〇	二二六〇
阿 泰 川					

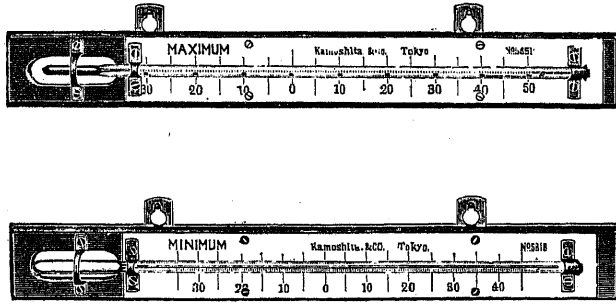
水系	最下流水力地點ノ流域面積	觀測所數		觀測所一箇所當流域面積	
		雨量	氣象	雨量	氣象
最 上 川	三四六六	一九	六	一七〇七	五四〇六
阿 賀 野 川	四三三九	二四	八	一八〇七	五四二〇

ク之ヲ配置セサルヘカラサルハ勿論ナレトモ河川ノ最上流部ニアリテハ一般ニ住人乏シク全ク觀測者ヲ求ムル能ハサル所少カラサリシタメ止ムヲ得ス氣象ノ調査ヲ行ハサリシ所アリ。今各水系ニ就キ其ノ最下流ノ水力地點ノ流域面積ト其ノ域内ニ存在スル觀測所ノ數トノ割合ニ示セハ左表ノ如シ

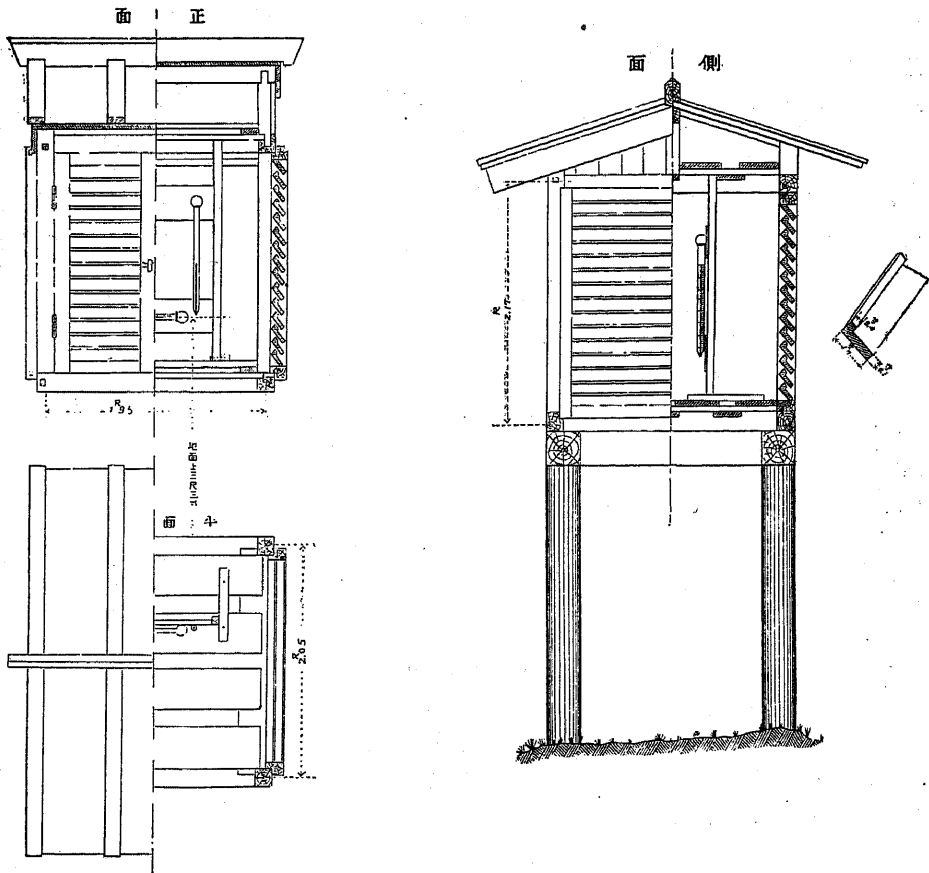
水系	最下流水力地點ノ流域面積	觀測所數		觀測所一箇所當流域面積	
		雨量	氣象	雨量	氣象
十 勝 川	二〇八六七	一〇	四	二〇八九	五二二三
沙 流 川、鷲 川	七六三三	二	一	三六二二	七六三三
長 流 川	一九〇一	一	一	一九〇一	一九〇一
利 別 川	九二〇	一	一	九二〇	九二〇
尻 別 川、余 市 川	一〇三三七	四	一	二五八四	一〇三三七
石 狩 川	六四二九	三	二	二九三三	五八四五
天 鹽 川	三三三六	二	一	一六六八	三三三六
常 呂 川、湧 別 川	一七六九	七	二	二五二七	八八四六
計	一四九〇九〇	五二	三三	二九三三	六七七七
仙臺局區内	三三六〇	四	一	五八五	三三六〇
奥 入 瀬 川	二〇〇六	七	四	二八五六	三三五三
馬 淵 川、新 井 田 川	一一一四	一〇	四	一一一四	一一一四
小 本 川、安 古 川	三六二五	六	一	六〇三	三六二五
赤 柴 川、今 泉 川	三八四四	二	一	一五三六	三八四四
北 上 川	五四二五	四	三	一三五六	一八〇八
鳴 瀬 川、名 取 川	二九二六〇	三	五	三二五二	五八五二
阿 武 隈 川	九〇〇六	四	二	二二五二	四四〇三
諸 戸 川、木 戸 川	一〇四〇	二	一	五二〇	一〇四〇
堤 川	五〇九四	六	一	八四九	五〇九四
能 代 川	一〇六二〇	七	四	一五二七	二六五五
雄 物 川、子 吉 川	九一五九	七	二	一三〇八	四四六〇
日 奈 會 川、吹 浦 川	一〇九一	三	一	三六四	一〇九一

水系	最下流水力地點ノ流域面積	觀測所數		觀測所一箇所當流域面積	
		雨量	氣象	雨量	氣象
計	二二五九五	一四	五	一六二二	一六二二
東京局區内	一五二〇八	五	一	三〇三	一五二〇八
久 慈 川、那 珂 川	二七二〇〇	一六	五	一七〇〇	五四四〇
利 根 川	五二七六	六	二	八六三	二五八六
荒 川、多 摩 川	七〇四〇	五	一	一四〇八	一四〇八
相 模 川	五七四	一	一	五七四	五七四
狩 野 川	七二四五	九	一	七〇五	七二四五
富 士 川	七三六八	三	一	二四二九	七三六八
大 井 川	三三三九〇	三	一	一四七二	五三九六
天 龍 川	一五七五	四	一	一六四五	六八八〇
三 面 川、荒 川	一六九六九	二	三	一三三	二六五
信 濃 川(千 曲 川)	一六九六九	二	三	一三三	二六五
同 (犀 川)	三〇七五	一	一	三〇七五	三〇七五
同 (原 川合流點ヨリ下流)	三〇七五	一	一	三〇七五	三〇七五
荒 川、海 川、姫 川	五八八九	五	一	一一七六	五八八九
計	一七九六〇	二四	三	二五六	七三六
名古屋局區内	八四四三	九	六	九三三	一四〇七
木 曾 川(本 流 川及 飛 騨 川)	二八七〇〇	二五	一六	一一四八	一七九四
同 (長 良 川)	一三四四八	一九	一四	七〇八	九六一
雲 出 川	一三九三	一	一	一三九三	一三九三
宮 川	三六三〇	一	一	三六三〇	三六三〇

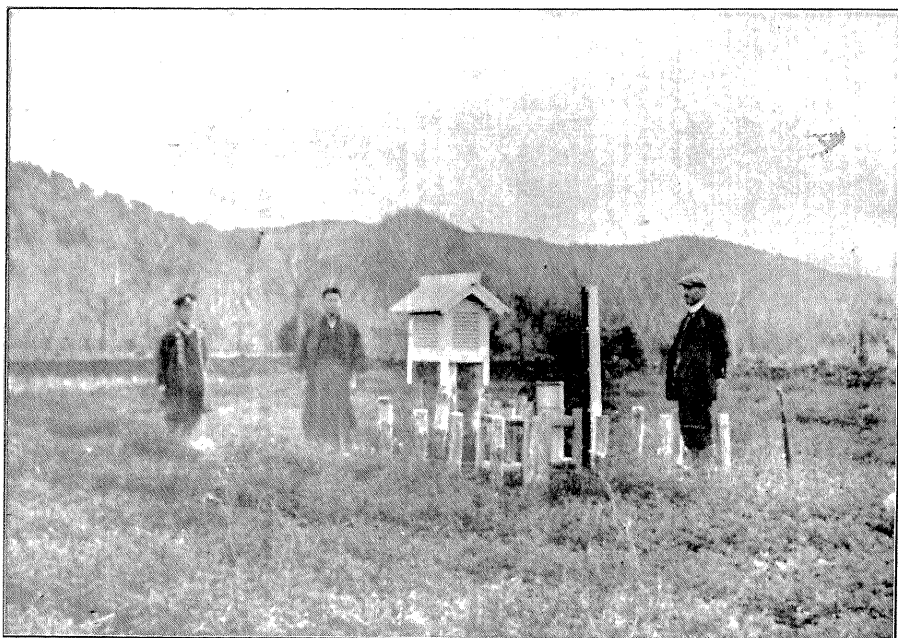
計 暖 寒 圖 四 第



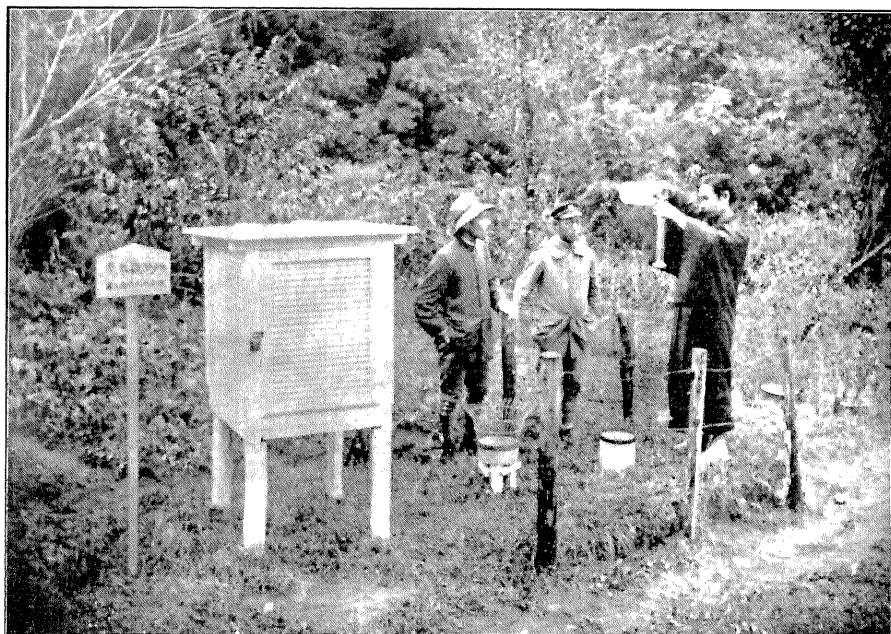
箱 葉 百 圖 五 第



所 測 觀 象 氣



所 測 觀 內 保 伊 川 內 月 瀬 系 水 川 田 井 新



所 測 觀 谷 ノ 湯 川 梨 佐 系 水 川 濃 信

ノ構造ハ第五圖ニ示スカ如ク四面ヲ鐵扉ニテ圍ミ大氣ノ流通ヲ圖リ之ニ四脚ヲ付シテ地上ニ設置シ寒暖計ノ高サヲ約一米ナラシメタルモノナリ

雪量計 降雪量ヲ測定スルニハ雪量計ヲ用ウ。雪量計ハ徑二〇糎ノ圓筒ニシテ之ヲ地上ニ直立セシメ其ノ内ニ降下シタル雪ヲ融解シテ計量スルモノナリ。雪量大ニシテ融解ニ困難ナル所ニアリテハ衡器ヲ以テ雪ノ重量ヲ測定シ之ヲ水量ニ換算スル方法ニ依リタルモノアリ。又積雪ノ深サヲ測定スルタメ積雪計ヲ設置セリ

三、觀測所ノ設置 氣象觀測用ノ器具ハ觀測者ノ常時居住シ又ハ勤務セル場所ノ附近ニ於テ觀測ニ便宜ナル場所ヲ選ヒ且開濶ニシテ障害物ナク通風良キ平地ニ之ヲ設置セリ。而シテ雨量計ハ大半地中ニ埋メ込ミ頂部ヲ水平ニ据ヘ付ケ周圍三尺四方ニ芝ヲ植エテ塵埃ノ散入ヲ防キ蒸發計ハ雨量計ノ附近ニ於テ之ト同高ニシテ水平ナル様据ヘ付ケ且周圍ニ芝植スルコト雨量計ト同様ニセリ。又寒暖計ヲ容ルヘキ百葉箱ハ之ヲ北向キニ設置シ其ノ内ニ安置セル寒暖計ノ高サハ前述ノ如ク地表上一米ナルヲ標準トシタリ

以上ハ本省ノ設置ニ係ル雨量又ハ氣象觀測所ニ於ケル

設備ノ一般ナルカ東北、北海道地方ノ如ク特殊ノ氣候ヲ有スル所ノ氣溫變化ノ實況ヲ知ランカタメ特ニリしやゝる型自記寒暖計二個ヲ購入シ其ノ一ヲ阿賀野川水系玉川ノ流域ニ、他ヲ石狩川支流夕張川ノ流域ニ設置シタリ

觀測所ヲ設置シタルトキハ直ニ觀測者ヲ選任シテ觀測ヲ開始セシム。觀測者ニハ主ニ郡村役場吏員、郵便局員、學校職員又ハ一般住民中比較的の文筆アルモノヲ選定シタレトモ本省ノ觀測所ハ山間僻陬ノ地ニ位スルモノ多キヲ以テ場所ニ依リテハ辛ウシテ數字ト姓名トヲ書シ得ル者ニ依頼シタル場合アリ

觀測所ノ設備ヲ終リ觀測ヲ開始シタルトキハ遞信局ハ其ノ位置ヲ陸地測量部五萬分ノ一地形圖ニ記入シ水系、河川、觀測所ノ所在地、設備ノ説明、經度、緯度、海拔高、設置年月日、觀測者ノ氏名、住所、職業、生年月、手當金額及觀測所附近ノ人家、道路、其ノ他ノ築造物、樹木、高地、田畑等ノ狀況ヲ具シ本省ニ報告シ且毎年二回以上出張ノ序ヲ以テ各觀測所ヲ巡回シ觀測者ノ監督、設備ノ檢査等ヲ行ヒ觀測ノ充分正確ナラシコトヲ期シタリ

四、觀測ノ方法 降水量、蒸發量、氣溫等ノ觀測ニハ器具ヲ使用シ風向、風力其ノ他ノ天氣、雜象等ハ目測ニ依リテ毎日

午前十時ニ之ヲ觀測セリ、而シテ觀測者ニハ第十二章ニ示
ス雨量觀測者心得又ハ氣象觀測者心得ヲ配付シ之ニ依リ
テ觀測シタル資料ハ卷末第二號表又ハ第三號表ニ示ス雨
量觀測野帳又ハ氣象觀測野帳ニ記載セシメ更ニ一箇月毎
ニ之ヲ纏メテ卷末第四號表又ハ第五號表ニ依ル雨量日表
又ハ氣象日表ヲ作製セシメタリ

他官署設置ノ觀測所ヲ利用シタルモノニアリテハ本省
ニ於テ特ニ觀測ノ方法ヲ示サス當該官署ノ觀測ニ成レル
結果ニ據ルコトトセリ、而シテ其ノ多クハ中央氣象臺ニ觀
測成績ノ存スルモノアルヲ以テ主トシテ同所ニ就テ之ヲ
蒐集シタリト雖中央氣象臺ニ於テ資料ノ存セサルモノモ
亦少カラサリシカハ是等ノ觀測所ニ於ケル資料ハ直接當
該官署ニ就テ之ヲ蒐集シ以テ氣象ニ關スル調査ノ欠陥ナ
カラシムコトニ努メタリ

五氣象ニ關スル調査圖表類 敍上ノ方法ニ依リ調査セ
ル資料ニ基キ左記數種ノ圖書ヲ作製セリ。是等ノ様式ハ
卷末第六號表乃至第十一號表ニ示スカ如シ

(イ)雨量年表 毎日ノ雨量ヲ記載セルモノニシテ一箇年
毎ニ別紙ヲ使用ス

(ロ)蒸發量年表 毎日ノ蒸發量ヲ記載セルモノニシテ一

箇年毎ニ別紙ヲ使用ス
(ハ)氣溫年表 毎日ノ最高最低氣溫ヲ記載セルモノニシ
テ一箇年毎ニ別紙ヲ使用ス

(ニ)雨量累年表 毎月ノ雨量ヲ數箇年ニ互リテ記載シタ
ルモノ

(ホ)蒸發量累年表 毎月ノ蒸發量ヲ數箇年ニ互リテ記載
シタルモノ

(ヘ)氣溫累年表 毎月ノ平均氣溫ヲ數箇年ニ互リテ記載
シタルモノ

前掲諸表ノ作製ヲ終リタルトキハ更ニ之ヲ圖ニ表ハシ
以テ各期ニ於ケル氣象變化ノ狀態ヲ一覽スルニ便ナラシ
メタリ。今其ノ一例トシテ雨量ニ關スル圖表ヲ示セハ卷
末第六圖ノ如シ

六、調査ノ結果 氣象調査ノ結果ニ依ル氣溫蒸發量及降
水量等ノ詳細ナル數値ハ舉ゲテ第五卷ニ示スカ如ク其ノ
年雨量ノ一般的分布ハ卷末第三十二圖ニ示スカ如シ。而
シテ氣象ノ狀態ハ各地ノ地勢、海洋ノ狀況等ニ依リ其ノ趣
ヲ異ニスルコト甚シキモノアルヲ以テ本調査ノ區域ヲ地
勢ニ從ツテ左ノ十二區ニ分チ次節以下ニ於テ其ノ概況ヲ
説述スヘシ

地方別區劃表

地方	所屬地	地名
北海道	北海道	青森縣(下北郡、上北郡、三戸郡)、岩手縣(能代川流域ヲ除ク)、宮城縣、福島縣(久慈川、那珂川、阿賀野川流域ヲ除ク)
東北	東北	青森縣(下北郡、上北郡、三戸郡ヲ除ク)、秋田縣、岩手縣(能代川流域)、山形縣(荒川流域ヲ除ク)、福島縣(阿賀野川流域)
關東	關東	福島縣(久慈川、那珂川流域)、茨城縣、栃木縣、群馬縣、千葉縣、埼玉縣、東京府、神奈川縣、山梨縣(多摩川流域)、静岡縣(酒匂川流域)
北陸	北陸	山形縣(荒川流域)、新潟縣、長野縣(荒川、姫川流域)、富山縣、石川縣、福井縣(九頭龍川流域)
東山	東山	山梨縣(多摩川流域ヲ除ク)、長野縣(荒川、姫川、矢作川流域ヲ除ク)、岐阜縣(矢作川流域ヲ除ク)
東海	東海	静岡縣(酒匂川流域ヲ除ク)、長野縣(矢作川流域)、岐阜縣(矢作川流域)、愛知縣、三重縣(木津川流域ヲ除ク)

地方	所屬	地名
山陰		福井縣(九頭龍川流域ヲ除ク)、京都府(淀川流域ヲ除ク)、兵庫縣(圓山川、矢田川流域)、鳥取縣、島根縣、廣島縣(江川流域)、山口縣(阿武郡、大津郡)
内海		滋賀縣、三重縣(木津川流域)、奈良縣(能野川流域ヲ除ク)、和歌山縣(吉野川流域)、大阪府、京都府(淀川流域)、兵庫縣(圓山川、矢田川流域ヲ除ク)、岡山縣、廣島縣(江川流域ヲ除ク)、山口縣(阿武郡、大津郡ヲ除ク)、香川縣、愛媛縣(仁淀川、渡川流域ヲ除ク)
南海		奈良縣(熊野川流域)、和歌山縣(吉野川流域ヲ除ク)、徳島縣、高知縣、愛媛縣(仁淀川、渡川流域)
北九州		福岡縣、大分縣(北川流域ヲ除ク)、熊本縣(五箇瀬川流域ヲ除ク)、佐賀縣、長崎縣
南九州		大分縣(北川流域)、宮崎縣、熊本縣(五箇瀬川流域)、鹿兒島縣

第二節 降水量 (本節ノ記事ハ中央氣象臺ノ調査資料ニ依ル所多シ)

本邦ハ峽長ナル嶋嶼ニシテ四面海ヲ繞ラシ海洋ノ影響ヲ蒙ルコト多ク從ツテ降水量亦饒多ニシテ年總量四、五千耗ニ及フ所アリ而シテ其ノ一般分布ノ狀況ハ本邦南岸及北陸ノ海岸ニ最多ク内海地方北海道方面ニ於テ少キヲ常

トス之レ太平洋及日本海ノ影響著シキニ依ルモノニシテ太平洋側ニ於テハ夏季多量ノ雲霧カ南西風ニ送ラレテ本邦高地ニ當リ九州四國ノ南部及紀州半島東海道南部等ニ落下スルヲ以テ此ノ地方ニテハ夏季ニ於ケル雨量多シ。日本海側ニアリテハ冬季北西風ニ依リテ襲來スル水蒸氣カ北陸一帶ノ山嶽ニ遮ラレテ降下スルカ故ニ冬季ニ於テ

降水量大ナリ

即チ一箇年内ニ於ケル雨量ノ分布ハ各季節ニ依リテ其ノ狀況ヲ異ニスレトモ太平洋側ニアリテハ一般ニ夏期南風カ多量ノ水蒸氣ヲ伴フ場合ニ降水量モ亦多量ナルモノニシテ殊ニ初夏梅雨ノ候南清地方ヨリ漸次本邦南岸ニ移

梅雨期ノ雨量 自大正七年至大正十年

地方	地名	梅雨期(六月)ノ最多雨量(一)		
		年	六月雨量	年雨量
北海道	釧路國・阿寒・舌辛村	大正八年	二二六六	一三九五九
東北	福島・石城・小名濱	大正九年	二二二六	一六四五五
奥羽	秋田・山本・藤琴	大正七年	三三〇七	二一八五二
關東	群馬・吾妻・津田	大正十年	三三三〇	二〇〇一六
北陸	福井・大野・上穴馬	大正九年	五七四三	二六八五〇
東山	岐阜・揖斐・春日	大正十年	八〇〇〇	三九三五六
東海	静岡・周智・氣田	大正九年	七二〇〇	三三三三五
山陰	島根・鹿足・六日市	大正十年	四〇九六	一八一七五
内海	廣島・山縣・八幡	大正十年	八六七〇	三三〇一六
南海	和歌山・吉野・上北山	大正十年	九九三二	六四九九〇
北九州	大分・直入・阿蘇野	大正十年	八九五四	二一九二五
南九州	宮崎・兒湯・西米良	大正十年	一〇一四三	三三六四二
平均			六二六九	二八六一三

動スル小低氣壓ハ長期ニ互ル降雨ヲ誘起シ又夏秋ノ候ニ於テ襲來スル颱風ハ多量ノ水蒸氣ヲ伴ヒ非常ナル豪雨ヲ起シ降水量ヲ増加スルモノナリ

本調査期間内ニ於ケル梅雨期ノ最多雨量ヲ摘記スレハ上表ノ如ク年雨量ノ大部分ハ之ニ起因スルモノニシテ其ノ年雨量ニ對スル割合ノ全國平均ハ二割強ヲ示ス而シテ是等ノ影響比較的少キハ東北奥羽北海道地方ナレトモ尙梅雨期ニ於テ年雨量ノ約一割強ニ相當スル降雨ヲ示シ九州地方ニアリテハ四割以上ニ達セルモノアリ。本省調査期間中梅雨期ノ雨量最大ナリシハ宮崎縣兒湯郡西米良ノ一千耗以上ヲ算セルモノニシテ斯ノ如キ地方ニ於テハ年雨量カ此ノ期節ノ降水量ニ依テ左右セラルルコト頗ル大ナリ。又調査期間内ノ六月ニ於ケル降水量ノ全國總平均ハ第一〇五頁ニ表示セルカ如ク約二一〇耗ニシテ必スシモ一箇年中ノ最多雨月ナラスト雖梅雨ハ彼ノ颱風ニ伴フ豪雨ト異リ長期間細雨連續スルモノナルヲ以テ河川ノ夏季湧水量ヲ増加スルニハ最效果アルモノナリトス。八、九月ノ候ニ襲來スル颱風ハ所謂二百十日前後ニ起ルモノニシテ海ニ於テハ船舶ノ航行ヲ途絶セシメ陸ニ於テハ田畑ヲ荒シ其ノ多クハ豪雨ヲ伴ヒ洪水山崩等ノ災害ヲ

起シ古來其ノ猛威ヲ逞フスルモノナリ而シテ其ノ發生地ハ主トシテ濠洲北方ノ海洋又ハ馬來群島附近ニシテ當初北西ノ進路ヲ取ルモ其ノ多クハ南支那ノ海上ニ達スルヤ漸次北東ノ方向ニ轉シ臺灣附近ヲ通過シテ本邦ニ襲來スルモノニシテ或ハ南方海上伊豆七島又ハ小笠原群島ヲ通過シテ東方ニ去ルモノアリ或ハ九州南方ノ海上ヨリ本邦太平洋岸ニ沿ヒテ金華山沖ニ至リ東方ニ去ルモノアリ或ハ東海道中部ヨリ上陸シテ本州ヲ殆ント縦斷スルモノアリ或ハ九州ノ南岸ヲ掠メテ中國ヲ横斷シ日本海ニ出ツル

モノアリ或ハ朝鮮海峽ヨリ日本海ニ入り北走シテ津輕海峽ヲ通過スルモノ等アリテ其ノ通路多樣ナリト雖多クハ九州南方ヨリ北東ノ進路ヲ取ルモノナリ而シテ颱風ハ緯度ノ北スルニ從ヒ其ノ勢力ヲ失フモノナレトモ本邦附近ニ於テハ尙偉大ナル風速ヲ有シ多大ノ降雨ヲ伴フコト普通ニシテ就中本州以南殊ニ九州、四國ノ南岸東海道地方ニ於テハ之カタメ年雨量ヲ増加スルコト著シク日本海岸ニ於テハ其ノ影響稍少ク北海道地方ニ於テハ最少シ。今調査期間内ニ於ケル顯著ナル颱風ヲ擧クレハ次ノ如シ

颱風一覽表

自大正七年 至大正十年

(中央氣象臺調査)

年 月 日	颱風 進 路	最大風速		最大日雨量	
		地名	風速	地名	雨量
七、七、九	ひりつびん群島ノ東方ニ顯ハレ徐々北上シテ大東島附近ヲ通過シ十二日豊後水道ヲ經テ中國西部ヲ貫キ日本海ニ出テテ消失セリ	鹿兒島 縣 肝屬郡佐多岬	三九・八	高知縣 高岡郡 東津野村大字芳生野	五七・〇 耗
七、七、二三	小笠原島ノ南方洋上ニ顯ハレ北西ニ進ミ二十五日奄美大島ノ北方ヲ經テ東海ニ入り二十六日濟州島附近ニ至リ北東ニ轉向シ朝鮮南部ヲ横切リ二十七日日本海ヲ通過シ二十八日北海道北部ヲ掠メテおほつく海ニ入ル	鹿兒島 縣 肝屬郡佐多岬	四四・八	高知縣 高岡郡 檮原村大字越知面	二〇〇・〇
七、八、二六	まりあな群島附近ノ洋上ニ顯ハレ北西ニ進ミ二十九日屋久島ノ東方洋上ヨリ北東ニ轉向シ四國南部ヲ掠メ三十日紀州半島ニ上陸シ本州中部ヲ横斷シテ金華山附近ヨリ太平洋ニ入ル	愛媛 縣 新居郡新居濱	四四・八	高知縣 高岡郡 長者村大字長者	三七九・八

七、九、二	まりあな群島附近ノ洋上ニ顯ハレ北西ニ進ミ十一日沖繩島ノ南西方海上ヨリ北東ニ轉向シ十二日琉球ヲ掠メ十四日紀州半島ニ上陸シテ近畿地方ヲ通過シ十五日日本海ヲ北上シ十六日間宮海峽ニ去ル	北海道後志國 壽都郡壽都(開道町)	四七・六	宮崎縣 兒湯郡 東米良村大字尾八重	三五四・二
七、九、一九	ぐわむ島附近ノ洋上ニ顯ハレ北西ニ進ミ二十二日大東島ノ南方洋上ニテ北北東ニ轉向シ二十四日濱松附近ヨリ上陸シ本州中部ヲ貫キ日本海ニ入り二十五日樺太南部ヨリおほつく海ニ入ル	茨城 縣 筑波郡筑波山	四六・七	埼玉縣 秩父郡 野上村大字本野上	一七六・〇
八、八、六	まりあな群島附近ノ洋上ニ顯ハレ十三日沖繩島ノ西方ヲ通過シ支那東海ニ入り十六日朝鮮海峽ヲ經テ日本海ニ入ル	長 崎 市	四七・八	宮崎縣 兒湯郡 西米良村大字村所	二八五・八
八、九、一三	大東島ノ南東洋上ニ顯ハレ十六日本州中部ヲ横斷ス 又十四日九州五島附近ニ發生シ九州北部ヲ掠メ内海地方ヲ經由シ本州中部ヲ通過シタル低氣壓アリ	北海道後志國 壽都郡壽都	四四・一	栃木 縣 上都賀郡足尾町	三一四・五
八、九、一九	まりあな群島附近ニ顯ハレ二十二日金華山ノ東方洋上ヲ通過シおほつく海ニ入ル。北海道ニ著シキ風雨ヲ起ス	北海道千島國 紗那郡紗那	二〇・三	北海道北見國紋別郡 上湧別村宇生野	二二二・六
九、七、三一	大東島ノ東方洋上ニ顯ハレ北西ニ進行シ八月二日奄美大島ノ東方洋上ニ來リ三日ノ朝昼久島附近ニ於テ北東ニ轉向シ四日紀州半島ニ上陸シテ東海道ヲ通過シ五日太平洋ニ入ル	和歌山 縣 西牟婁郡湖岬	四三・三	群馬縣 吾妻郡 草津町大字草津	二七二・五
九、八、一〇	大東島ノ南西方洋上ニ顯ハレ北東ニ進行シタリシカ方向轉々シテ十四日ノ朝土佐沖ニ至リ十五日四國西部ヲ横切リ中國ヲ貫キ日本海ニ出テ十七日北海道北部ヲ掠メテおほつく海ニ入ル	高知 縣 安藝郡室戸	四五・六	高知縣 長岡郡 本山町大字本山	五五七・〇
九、九、二一	まりあな群島附近ノ洋上ニ起リ北西ニ進行シ二十八日沖繩島東方洋上ニ於テ北東ニ轉向シ三十日夜半房總沿岸ヲ掠メ十月一日根室ヨリ千島南部ニ去ル	千葉 縣 安房郡布良	四五・六	奈良縣 吉野郡 上山山村大字小椋	三九四・〇

年次	地方														
	網走	釧路	帯廣	旭川	札幌	函館	石巻	福島	青森	秋田	山形	銚子	水戸	宇都宮	前橋
明治30年															
一															
二															
三															
四															
五															
六															
七															
八															
九															
一〇															
一一															
一二															
一三															
一四															
一五															
一六															
一七															
一八															
一九															
二〇															
二一															
二二															
二三															
二四															
二五															
二六															
二七															
二八															
二九															
三〇															
三一															

平均	地方														
	網走	釧路	帯廣	旭川	札幌	函館	石巻	福島	青森	秋田	山形	銚子	水戸	宇都宮	前橋
三二	八五二〇	九五七九	一一三六六	一一八五二	一〇六九〇	一四五一九	一一三四八	一五六六三	一四四六六	一八九七三	一一〇一九	一六七七四	一三〇〇四	一七三〇九	一
三一	六二六一	六八三七	五四九九	八九五五	八五四五	九五四一	九二一一	一一五六二	一一六〇〇	一一三六〇	一一〇九〇	一一三〇〇	一一四八八	一一三〇〇	九二七九
三〇	八四六一	一一二七九	一一〇六二	一一〇四六	一一五三七	一一〇五九	一一三五六	一一九二六	一一六〇〇	一一三九〇	一一二九〇	一一七九七	一一四〇四	一一三〇〇	一一三〇〇
二九	六四三二	九六三三	八六八〇	八七八八	九三九三	一〇三三三	一〇三五六	一一三九四	一一三九四	一一三九四	一一三九四	一一三九四	一一三九四	一一三九四	一一三九四
二八	七三二〇	一〇九六〇	一一二六七	一一二九二	八九六三	一一二七四	一一三六四	一一五五四	一一五五四	一一五五四	一一五五四	一一五五四	一一五五四	一一五五四	一一五五四
二七	九二二四	一一二八七	一一一五七	一一一五七	一一〇五三	一一二九〇	一一三六四	一一五五四	一一五五四	一一五五四	一一五五四	一一五五四	一一五五四	一一五五四	一一五五四
二六	五四四六	八〇四三	七六六八	八八〇九	八八三九	一一二四五	一一二四五	一一三九四	一一三九四	一一三九四	一一三九四	一一三九四	一一三九四	一一三九四	一一三九四
二五	六六九九	八三三三	七四四五	九五六四	七四一七	九四一六	九四一六	一一三九四	一一三九四	一一三九四	一一三九四	一一三九四	一一三九四	一一三九四	一一三九四
二四	八二六九	一一一八九	一一〇六一	一一〇七四	一一三九六	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七
二三	七三三一	九二二三	八二二六	九四六六	九〇三二	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七
二二	九五九九	一一二九四	一一〇六三	一一〇九八	一一〇六六	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七
二一	五八七九	九七四〇	九六六五	九五四七	八四〇七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七
二〇	一一八〇	一一五三六	一一〇六一	一一〇五九	一一〇三六	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七
一九	一一三二四	一一三三九	一一二六二	一一二六二	一一〇三六	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七
一八	一一三二四	一一三三九	一一二六二	一一二六二	一一〇三六	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七
一七	一一三二四	一一三三九	一一二六二	一一二六二	一一〇三六	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七
一六	一一三二四	一一三三九	一一二六二	一一二六二	一一〇三六	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七
一五	一一三二四	一一三三九	一一二六二	一一二六二	一一〇三六	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七
一四	一一三二四	一一三三九	一一二六二	一一二六二	一一〇三六	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七
一三	一一三二四	一一三三九	一一二六二	一一二六二	一一〇三六	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七
一二	一一三二四	一一三三九	一一二六二	一一二六二	一一〇三六	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七
一一	一一三二四	一一三三九	一一二六二	一一二六二	一一〇三六	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七
一〇	一一三二四	一一三三九	一一二六二	一一二六二	一一〇三六	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七
九	一一三二四	一一三三九	一一二六二	一一二六二	一一〇三六	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七
八	一一三二四	一一三三九	一一二六二	一一二六二	一一〇三六	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七
七	一一三二四	一一三三九	一一二六二	一一二六二	一一〇三六	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七
六	一一三二四	一一三三九	一一二六二	一一二六二	一一〇三六	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七
五	一一三二四	一一三三九	一一二六二	一一二六二	一一〇三六	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七
四	一一三二四	一一三三九	一一二六二	一一二六二	一一〇三六	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七
三	一一三二四	一一三三九	一一二六二	一一二六二	一一〇三六	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七
二	一一三二四	一一三三九	一一二六二	一一二六二	一一〇三六	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七
大正元年	一一三二四	一一三三九	一一二六二	一一二六二	一一〇三六	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七	一一三九七

其ノ二

年次	地方											
	東京	關東	北陸	甲府	長野	松本	飯田	高山	岐阜	沼津	東海	山陰
明治六年												
七												
八												
九												
一〇												
一一												
一二												
一三												
一四												
一五												
一六												
一七												
一八												
一九												
二〇												
二一												
二二												
二三												
二四												
二五												
二六												

年次	地方											
	東京	關東	北陸	甲府	長野	松本	飯田	高山	岐阜	沼津	東海	山陰
二七												
二八												
二九												
三〇												
三一												
三二												
三三												
三四												
三五												
三六												
三七												
三八												
三九												
四〇												
四一												
四二												
四三												
四四												
大正元年												
二												
三												
四												
五												
六												

地方	年次	年雨量ノ最大、最小及較差											
		平均	一	九	八	七	六	五	四	三	二	大正元年	明治四十四年
内	彦根	一六四〇・一	二六六〇	一四三〇	一四九〇	一八〇四	一八四三	二〇九四	一七七〇	一四三〇	一五二八	一三八一	一六四〇
	京都	一五九四	二五二〇	一四三〇	一四九〇	一八〇四	一八四三	二〇九四	一七七〇	一四三〇	一五二八	一三八一	一六四〇
	和歌山	一三六〇	二五二〇	一四三〇	一四九〇	一八〇四	一八四三	二〇九四	一七七〇	一四三〇	一五二八	一三八一	一六四〇
	大阪	一三三〇	二五二〇	一四三〇	一四九〇	一八〇四	一八四三	二〇九四	一七七〇	一四三〇	一五二八	一三八一	一六四〇
	岡山	一〇二六	二五二〇	一四三〇	一四九〇	一八〇四	一八四三	二〇九四	一七七〇	一四三〇	一五二八	一三八一	一六四〇
	廣島	一六七六	二五二〇	一四三〇	一四九〇	一八〇四	一八四三	二〇九四	一七七〇	一四三〇	一五二八	一三八一	一六四〇
	松山	一五九二	二五二〇	一四三〇	一四九〇	一八〇四	一八四三	二〇九四	一七七〇	一四三〇	一五二八	一三八一	一六四〇
	高知	二二〇九	二五二〇	一四三〇	一四九〇	一八〇四	一八四三	二〇九四	一七七〇	一四三〇	一五二八	一三八一	一六四〇
	大分	一四四〇	二五二〇	一四三〇	一四九〇	一八〇四	一八四三	二〇九四	一七七〇	一四三〇	一五二八	一三八一	一六四〇
	福岡	一七六三	二五二〇	一四三〇	一四九〇	一八〇四	一八四三	二〇九四	一七七〇	一四三〇	一五二八	一三八一	一六四〇
	佐世保	一六九三	二五二〇	一四三〇	一四九〇	一八〇四	一八四三	二〇九四	一七七〇	一四三〇	一五二八	一三八一	一六四〇
	長崎	二〇八五	二五二〇	一四三〇	一四九〇	一八〇四	一八四三	二〇九四	一七七〇	一四三〇	一五二八	一三八一	一六四〇
九州	佐賀	一七九八	二五二〇	一四三〇	一四九〇	一八〇四	一八四三	二〇九四	一七七〇	一四三〇	一五二八	一三八一	一六四〇
	熊本	一六九三	二五二〇	一四三〇	一四九〇	一八〇四	一八四三	二〇九四	一七七〇	一四三〇	一五二八	一三八一	一六四〇
	宮崎	二〇〇七	二五二〇	一四三〇	一四九〇	一八〇四	一八四三	二〇九四	一七七〇	一四三〇	一五二八	一三八一	一六四〇
	鹿兒島	二〇〇七	二五二〇	一四三〇	一四九〇	一八〇四	一八四三	二〇九四	一七七〇	一四三〇	一五二八	一三八一	一六四〇
	平均	一七四三	二五二〇	一四三〇	一四九〇	一八〇四	一八四三	二〇九四	一七七〇	一四三〇	一五二八	一三八一	一六四〇
	最大	二五二〇	二五二〇	二五二〇	二五二〇	二五二〇	二五二〇	二五二〇	二五二〇	二五二〇	二五二〇	二五二〇	二五二〇
	最小	一四三〇	一四三〇	一四三〇	一四三〇	一四三〇	一四三〇	一四三〇	一四三〇	一四三〇	一四三〇	一四三〇	一四三〇
	較差	一〇九〇	一〇九〇	一〇九〇	一〇九〇	一〇九〇	一〇九〇	一〇九〇	一〇九〇	一〇九〇	一〇九〇	一〇九〇	一〇九〇
	平均年雨量	一九九七	一九九七	一九九七	一九九七	一九九七	一九九七	一九九七	一九九七	一九九七	一九九七	一九九七	一九九七
	較差ノ平均年雨量ニ對スル比	八五九	八五九	八五九	八五九	八五九	八五九	八五九	八五九	八五九	八五九	八五九	八五九
	観測期間	一六一一〇	一六一一〇	一六一一〇	一六一一〇	一六一一〇	一六一一〇	一六一一〇	一六一一〇	一六一一〇	一六一一〇	一六一一〇	一六一一〇

年雨量ノ最大、最小及較差 中央氣象臺ノ調査資料ニ依ル

地方	地名	年雨量			平均年雨量	較差ノ平均年雨量ニ對スル比	観測期間
		最大	最小	較差			
北海	旭川	一三〇四・二	七九五〇	五五三二	一九六八	五二七	二二一〇
	帯広	一四二一・〇	五四〇九	八七〇一	一九六八	九〇三	二五一一〇
	網走	一七〇四・〇	六八三七	一〇二〇・三	一九六八	九二八	二三一〇
地方	地名	最大	最小	較差	平均年雨量	較差ノ平均年雨量ニ對スル比	観測期間

道	北東	奥	關	北	東山
札 幌	石 巻	青 森	銚 子	新 潟	山 形
函 館	石 巻	秋 田	水 戸	金 澤	山 形
一三、五三三・五	一六、六三三・三	一七、〇五八・八	二二、二五〇・〇	二二、三六四・一	一六、五三七・七
七、二四・六	八、九八六・六	九、四三三・五	一〇、九〇九・九	一三、四一三・三	九、七一一・三
一〇、四一四・四	七、六四・七	七、六二三・三	一、一五九・一	九、七五二・一	六、八二四・四
九九四・八	一一、六八・六	一一、三五七・一	一六、八九八・八	一八、〇四一・一	一一、二八七・〇
八九七	六五四	五六二	六八六	五四〇	五三〇
一六一一〇	二一一一〇	一六一一九	二〇一一〇	一五一一〇	二八一〇
三十三箇年	三十三箇年	三十三箇年	三十一箇年	四十箇年	三十一箇年

キヲ以テ降水量一般ニ尠少ナリ。其ノ平均年雨量ニ就テ見ルニ七〇〇餘耗ヨリ一、一〇〇餘耗ノ間ニ位シ其ノ總平均ハ一、〇〇〇餘耗ニ過キス

更ニ各年ノ雨量ニ就テ見ルニ既往ニ於テ最小ナリシハ明治三十三年帶廣ノ五四〇耗最大ナリシハ明治六年函館ノ一、七四五耗ナレトモ概シテ各年ノ較差甚シカラス、而シテ雨量ノ一般の分布ニアリテハ札幌以南渡島半島並石狩平野ニ於テ稍多量ヲ示シ十勝釧路地方之ニ亞キ北見地方ニ於テ最小ナルヲ見ル

(二) 東北及奥羽地方 東北地方ハ太平洋ノ影響ヲ受ケ、奥羽地方ハ日本海ノ影響ヲ蒙ルコト多大ナルヲ以テ兩地ニ於テハ雨量分布ノ状態ヲ異ニス。東北地方ハ夏季本邦ニ襲來スル颱風ノ勢力ヲ減スルモノ多キカ故ニ其ノ年雨量多カラサルモ奥羽地方ニ於テハ冬季日本海ヨリ來ル吹雪ヲ蒙ルコト少カラサルヲ以テ年雨量相當多量ナルヲ常トス、即チ平均年雨量ニ於テ東北地方ノ一、二〇〇餘耗ナルニ對シ奥羽地方ハ一、四七〇餘耗ヲ算シ更ニ秋田測候所ニ於テハ約一、八〇〇耗ヲ示セリ

年次の變化ニアリテハ特ニ顯著ナル特性ヲ示ササレトモ東北地方ノ變化少キニ反シ奥羽地方ニ於テ其ノ較差甚

稀ナリ。而シテ本地方ニ於ケル年雨量ノ少カリシハ明治二十年、同二十七年、同四十年ニシテ最小ハ明治二十七年ナ

(五) 東山地方 此ノ地方ハ南北ニ山岳連互シ直接海洋ニ面セサルヲ以テ雨量稍少シ、然レトモ年雨量一、〇〇〇耗ヲ下ルコト稀ニシテ三、〇〇〇耗以上ヲ算セルモノアリ、而シテ其ノ最多キハ岐阜並甲府地方ニシテ前者ハ日本海ノ影響ヲ受クルコト稍多ク爲ニ雨量ノ變化著シキモノアリ後者ハ主トシテ夏季太平洋ノ影響ヲ蒙ルモノニシテ其ノ變化東海地方ニ酷似セルモノアリ

本地方ノ平均年雨量ハ一、五〇〇餘耗ニシテ岐阜ノ二、〇〇〇耗ヲ最大トシ長野ノ一、〇〇〇耗ヲ最小トス。而シテ既往ニ於ケル年雨量ノ少カリシハ岐阜ニ於テハ明治二十年、同二十七年、同三十四年、同四十五年ニシテ他ノ地方ニ於テハ調査ノ期間短ク之カ充分ナル考察ヲ行フ能ハサルモ大正二年ニ於テハ其ノ量比較的減少シタルモノノ如シ

(六) 南海及南九州地方 本地方ハ本邦中雨量ノ最多ナル地方ニ屬スルハ既ニ述ヘタルカ如シ。從ツテ其ノ年々ノ變化モ亦殊ニ著シク既往ニ於ケル年雨量ノ最大、最小ノ較

シキヲ見ル、之レ前述セルカ如ク年雨量ノ多寡ハ主トシテ本邦ニ襲來スル顯著ナル低氣壓ニ起因スルモノニシテ東北地方ニ於テハ其ノ影響少キモ奥羽地方ニアリテハ冬季ニ之カ影響ヲ蒙ルコト稍大ナルモノアルカタメナリ、即チ山形ノ内陸的ニシテ年次の變化ノ小ナルニ反シ秋田ニ於テハ毎年雨量ノ變化著シキヲ見ルヘク青森、石巻、福島等ニ於テハ其ノ變化比較的少シ

(三) 關東及東海地方 關東、東海地方ニ於テハ夏季颱風ノ影響ヲ受クルコト少カラサルヲ以テ其ノ年雨量モ中位ニアリ。其ノ年次の變化ニ於テモ亦前記ノ諸地方ヨリ稍増大シ其ノ平均年雨量ノ最大ハ二、〇〇〇耗以上ニ及ヒ最小ナルモノニ於テモ一、三〇〇耗ヲ下ラス。而シテ本地方ニ於テ雨量ノ著シク減少セシハ明治二十四年、同三十三年並大正二年ニシテ該年ニ於テハ各河川トモ流量ノ著シキ減少ヲ見タルナルヘシ

(四) 北陸地方 本地方ハ冬季日本海ノ影響ヲ蒙ルヲ以テ雨量特ニ大ナリ就中富山、石川、福井縣ニ於テ最大ニシテ金澤ニ於テハ年總量三、四〇〇耗ヲ超ヘタルコトアリ、其ノ最小ナル年ニ於テモ一、九〇〇耗ヲ下ラス、新潟地方ニアリテハ之ヨリ稍小ナル値ヲ示スト雖尙一、五〇〇耗ヲ下ルコト

差ハ二、五〇〇耗ヲ超過スルモノアリ、而シテ其ノ平均年雨量ハ高知ニ於テ二、七〇〇耗、南九州ニ於テ二、四〇〇耗ニ達シ其ノ最大ハ四、〇〇〇耗ヲ超ヘ其ノ最小ナルモノニアリテモ約一、四〇〇耗ヲ算ス。本地方ニ於ケル既往年雨量ノ最小ナリシハ明治二十七年、同三十七年、大正二年等ニシテ是等ノ年ニ於テハ各河川ノ流量モ亦尠少ナリシナルヘシ

(七) 内海地方 本地方ハ瀬戸内海ヲ中心トスル一帯ノ地域ニシテ四面山地ヲ以テ圍繞セラレルカ故ニ雨量モ亦餘リ多カラス、即チ其ノ平均年雨量ハ一、四六〇耗ニシテ彦根ノ一、七〇〇耗ヲ最大トシ岡山ノ一、一〇〇耗ヲ最小トス

本地方ニ於ケル既往ノ年雨量ヲ見ルニ其ノ變化稍不規則ナレトモ南海、南九州地方ノ如ク顯著ナラス又北海道地方ノ如ク年々殆ト大ナル變化ヲ見サルニモアラス。年雨量ノ最大、最小ノ較差ハ彦根ヲ除ケハ概ネ一、〇〇〇耗内外ニシテ年雨量ノ最小ナリシハ一般ニ明治二十七年、同三十七年トシ最近ニ於テハ大正二年及大正六年ナリ

(八) 山陰及北九州地方 山陰地方ニ於テハ夏季颱風ノ影響ヲ受クルコト稍少キノミナラス冬季日本海ヲ通過スル北西風ノ影響ヲ蒙ルコトモ亦地勢上尠少ナルヲ以テ年雨量ノ變化大ナラス、即チ其ノ變化ノ状態ハ東北、北海道地方

ニ酷似シ平均年雨量一、六〇〇耗ナルニ其ノ較差ハ僅ニ六〇〇耗ニ過キス。之ニ反シテ北九州殊ニ其ノ西岸地方ニ於テハ夏季颱風ノ餘波ヲ蒙ルコト屢ナルカ故ニ雨量ノ變化モ亦甚シキヲ常トス其ノ最大最小ノ較差ハ一、〇〇〇耗乃至一、八〇〇耗ヲ示シ平均年雨量ハ約一、七八〇耗ヲ算ス。而シテ年雨量ノ少カリシハ明治二十七年同三十七年

平均年雨量比較表

地方	平均年雨量(1)	本調査期間ニ於ケル平均年雨量(2)	(2)ノ(1)ニ對スル比(%)
	北海道	一、〇二六・〇	
東北	一、二一四・八	一、五一四・七	一二四・六
關東	一、四七六・五	一、八三九・二	一二四・五
北陸	一、六二六・〇	一、六〇五・九	九八・七
東山	二、一七三・六	二、五五四・六	一一七・五
東海	一、五四四・〇	二、〇四四・五	一三三・四
山陰	一、九〇〇・二	二、五二九・〇	一三三・〇
内海	一、六〇二・九	一、六三四・六	一〇二・〇
南海	二、七〇八・六	三、一〇三・〇	一一四・六
北九州	一、七八五・五	一、八六五・一	一〇四・九
南九州	二、三八九・八	二、八三〇・〇	一一八・四
全國	一、六二八・一	一、九二五・一	一一九・〇

大正二年竝大正六年ニシテ就中明治二十七年ヲ以テ最小ナリトス
 以上ハ年雨量ヲ地方別ニ概説セルモノナルカ更ニ之ヲ本省調査期間(大正七年乃至大正十年内)ノ雨量ニ比スルニ上表ノ如ク本省調査期間内ノ雨量ハ一般ニ平年ヨリ多ク平均二割ノ増加ヲ示セリ從ツテ本調査ノ結果ニ依ル河川流量ハ平年ノ流量ヨリ稍多量ナルヘク之ヲ前述ノ如ク雨量ノ甚シク寡少ナリシ年ニ比較スレハ少カラサル差異ヲ生スルヤ計リ難シ然レトモ年雨量ノ變化ニ依リテ河川流量ヲ推定スルハ主トシテ其ノ一箇年ノ總流量ニシテ渇水量低水量等ノ如キ特種ノ小ナル流量ニ對シテ之カ推定ヲ行フニハ更ニ雨量ノ季節的變化ニ就キテ詳細ナル研究ヲ行ハサル可ラサルナリ

二月雨量及日雨量 本邦河川ハ一般ニ夏冬二季ニ於テ渇水ヲ生シ春秋ノ候ニ於テ流量豐富ナルモノナリ之レ夏季ハ晴天ノ繼續スルコト多ク偶々降雨ヲ見ルモ多クハ豪雨ニシテ一時ニ河川ニ流下シ且氣溫高ク蒸發多量ナルタメ水源地ニ水分ヲ保留スルコト少キニ起因スルモノニシテ冬季ニ於テハ一般ニ降水量寡少ナルノミナラス氣溫降下ノタメ降水ノ多クハ凍結シテ殆ト河川ニ流入セザルニ

依ルモノナリ。春秋二季ニアリテハ豪雨ノ如ク一時ニ強大ナル降雨ナシト雖所謂春雨秋雨等ノ如キ持續的降雨アリ氣溫モ亦中位ニアリテ水源ノ濕分ヲ減少セシムルコト

本省調査期間内ニ於ケル平均月雨量 自大正七年至大正十年

地方	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
北海道	八五・四	四八・二	五二・五	五九・八	八三・七	八三・八	一〇五・二	一四〇・九	一五〇・二	八七・三	九九・四	七七・一
東北	九六・八	七六・三	八八・六	九七・七	一三五・六	一〇七・九	一四〇・五	一八七・七	二二九・三	一三八・九	一一五・五	八九・九
關東	一一一・〇	一一三・三	一一一・五	一〇一・七	一一八・五	一〇一・一	一七二・二	一六二・四	二〇七・六	一四九・八	一九三・五	一七一・六
北陸	三一〇・四	一六五・七	一九〇・七	一五〇・三	一四四・四	一五七・九	二二四・三	一八六・七	二八四・五	一九五・八	二四七・六	二七五・七
東山	一〇七・三	七四・九	一三五・七	一六五・九	一四二・八	二五八・二	二九一・五	二二四・九	三一〇・五	一四五・五	一〇六・九	九三・一
東海	六四・一	八二・四	一七三・八	二二六・七	二〇二・八	三〇二・五	二八五・八	三三三・七	四二四・二	一七八・二	一五四・八	九一・〇
山陰	一一二・八	九五・七	一三一・五	一〇八・九	八九・六	一八四・五	二〇二・九	一五三・〇	二二二・四	一〇三・六	七七・二	一三六・一
南海	一〇六・一	八七・六	一三五・四	一四三・六	一一二・八	二五五・五	二四九・四	二〇二・三	二六六・六	一〇三・二	七七・二	一一九・七
北九州	七二・二	七三・八	一五五・九	一一六・九	一一二・六	三八二・〇	二九二・八	一九七・二	一八六・〇	九六・〇	七六・八	九二・九
南九州	八七・一	一〇〇・一	二二九・九	二〇五・九	一六六・七	五三四・六	四九八・〇	四六五・七	二二二・三	一一一・二	九七・五	九一・〇
全國	一二三・九	八八・九	一二八・九	一七二・七	一三六・一	二〇九・七	二二七・五	二二七・〇	二六〇・三	一三五・九	一二五・六	一一九・八

月雨量ニ於テハ裏日本ト表日本トニ於テ全ク其ノ趣キ異ニスルモノアリ即チ日本海ニ面スル地方ニアリテハ夏季五、六月頃雨量最少ク冬季ニ於テ最多シ就中其ノ現象顯著ナルハ北陸道一帶ノ地方ニシテ奥羽地方之ニ次キ山

陰地方更ニ少ク北海道ニ至レハ殆ト是等ノ影響ヲ認メサ
 ルカ如シ。之ニ反シテ表日本ニ於テハ夏秋ノ候七八九ノ
 三箇月ニ雨量最多ク冬季ニ於テ最少ク其ノ月次の變化ハ
 漸次ニ増減シ急激ナル變化アルモノ少シ。而シテ其ノ位
 置ヨリ之ヲ見レハ南方ニ位スル九州南海地方ニ於テハ六、
 七月ノ候ニ降雨量多キカ緯度ノ北スルニ從ヒ雨量ノ多キ
 時期漸次ニ移動シ關東東北地方ニ於テハ八、九月ノ候降雨
 量最大ヲ示ス場合多シ

内海東山地方ノ如ク表裏日本ノ中央ニ介在スル内陸地
 方ニアリテハ前兩者ヲ折衷シタル如キ状態ヲ示シ月雨量
 ノ變化モ亦種々複雑スレトモ寧ロ太平洋ノ影響ヲ受クル

四季平均雨量比較表

地方 地名	平均年雨量	季節別平均月雨量				季節別平均月雨量ノ平均年雨量ニ對スル比(%)				観測期間
		春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	
北海道	1,016.0	68.6	103.3	109.5	59.6	20.2	30.3	33.1	17.5	明治 大正
函館	1,160.7	70.7	120.8	128.2	67.0	18.3	31.2	33.1	17.4	
札幌	994.8	56.7	80.3	118.6	76.0	17.1	24.2	35.8	16.1	
旭川	1,068.5	57.5	105.2	119.5	74.0	16.1	29.5	33.6	20.8	
帯広	963.4	73.3	108.5	97.5	41.8	22.8	33.8	30.4	13.0	
釧路	1,099.2	93.8	116.5	108.2	47.9	25.6	31.8	29.5	13.1	
網走	799.7	56.8	82.4	78.9	48.4	21.3	30.9	29.6	18.2	
石巻	1,168.6	97.0	128.4	115.1	48.0	24.9	33.2	29.6	12.3	
福島	1,263.7	85.8	150.2	131.6	53.6	20.4	35.7	31.2	12.7	
平均	1,124.8	91.4	139.3	133.4	50.8	23.6	34.4	30.5	12.5	
青森	1,157.1	76.1	109.6	132.9	133.7	16.8	24.2	29.4	29.6	
秋田	1,794.7	111.5	171.6	181.1	134.0	18.6	28.7	30.3	22.4	
山形	1,130.6	73.9	132.8	111.4	91.8	18.0	32.4	27.2	22.4	
平均	1,476.5	88.2	139.5	143.4	121.1	17.9	28.4	29.1	24.6	
銚子	1,689.8	154.1	128.3	190.1	90.9	27.4	22.8	33.7	16.1	
水戸	1,513.4	138.8	147.7	157.2	60.7	27.5	29.3	31.2	12.0	
宇都宮	1,642.0	128.3	220.1	152.1	46.7	23.5	40.2	27.8	8.5	
前橋	1,338.2	90.7	190.3	132.7	33.4	20.3	42.7	29.8	7.2	
東京	1,567.4	131.1	152.6	176.6	62.1	25.1	29.2	33.8	11.9	
横須賀	1,963.7	165.2	190.2	219.4	79.8	25.2	29.1	33.5	12.2	
平均	1,626.0	135.3	173.2	173.1	62.4	25.0	31.8	33.7	11.5	
新潟	1,804.1	103.0	135.6	181.7	181.1	17.1	22.5	30.2	30.1	
金澤	2,252.7	160.4	183.3	228.4	270.1	19.1	21.8	27.1	32.0	
平均	2,173.7	133.2	160.1	205.9	236.4	18.3	23.1	28.4	32.2	
甲府	1,287.0	88.3	151.4	140.4	48.6	20.6	35.3	32.8	11.3	
長野	1,005.9	69.1	121.0	91.0	53.8	20.6	36.1	27.2	16.1	
松本	1,161.4	91.3	136.8	113.5	45.5	23.6	35.3	29.3	11.8	
飯田	1,792.1	153.6	227.5	154.1	73.3	25.7	36.3	25.7	12.3	
高山	1,867.7	138.4	222.5	175.1	97.3	22.2	34.1	28.1	15.6	

コト多キカ如ク冬季ヨリモ夏季ニ於テ稍多量ナルヲ示ス
 以上ハ本省調査期間内ニ於ケル月雨量分布ノ大要ナル
 カ各測候所開始以來ノ観測結果ニ依ル平均月雨量ノ分布
 ヲ示セハ卷末第八圖ノ如ク前記本省調査期間内ニ於ケル
 モノト大同小異ニシテ之ヲ以テ推測スルモ略前述ノ如キ
 結果ヲ得ヘシ

四季ニ於ケル雨量ノ變化 雨量ノ季節的變化ハ前述ノ
 月雨量變化ニ依リテ大略其ノ状態ヲ考察シ得ヘケレトモ
 尙卷末第八圖ノ平均月雨量ヲ春(三、四、五)夏(六、七、八)秋(九
 十、十一)冬(十二)月ヨリ翌年二月ニ至ルノ四季ニ分チ更ニ
 之ヲ平均年雨量ニ比較スレハ左表ノ如シ

スルカ如ク春夏秋ノ三季ニ於テハ高知ニ於テ最大ニシテ
 冬季ニアリテハ金澤ヲ最大トス。而シテ各季節ニ於ケル
 最大雨量、最小雨量ノ較差ノ最大ナルハ夏季ノ二五二耗ニ
 シテ冬季ノ二三七耗之ニ次キ以下春季及秋季ニ於テ最小
 ナリ

四季平均月雨量ノ最大最小

季節	最大季節雨量		最小季節雨量		較差
	地名	雨量	地名	雨量	
春	高知	二四六三	網走	五六八	一八九五
夏	高知	三三二八	札幌	八〇三	二五二五
秋	高知	二四五〇	長野	九一〇	一五四〇
冬	金澤	二七〇一	前橋	三二四	二三七七

次ニ本省調査期間中大正七年ヨリ大正十年ニ至ル四箇
 年間ニ於ケル四季別平均月雨量ヲ例年ノ季節別平均月雨
 量ニ比較スレハ左表ニ示スカ如ク其ノ分布ノ状態ニ於テ
 ハ前述ノ四季平均雨量比較表ニ於ケルト大差ナキカ如シ。
 而シテ春季ニ於テハ北海道、東北、奥羽、關東東海地方ハ平年
 ニ比シテ稍増加セルモ北陸、東山、山陰、内海、南海九州地方ニ
 アリテハ概ネ減少セリ。夏季ニ於テハ東北、奥羽、關東、北陸、
 東山地方ヲ除ケハ一般ニ増加ノ傾向ヲ示シ、秋季ニアリテ
 ハ殆ト一般ニ増加シ唯内海以南ノ地ニ於テ稍減少セルヲ
 見ルノミ。冬季ニ於テモ亦一般ニ増加シ僅ニ北陸地方ニ
 於テ多少ノ減少ヲ見ルニ過キス

四季平均雨量比較表

地方	地名	季節別平均月雨量				本省調査期間ニ於ケル季節別平均月雨量				前二者ノ比(%)			
		春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
海北	網走	五六八	八二四	七八九	四八四	六六二	一〇四三	八五八	四九八	一一六五	一二六六	一〇八七	一〇二九
	釧路	九三八	一一六五	一〇八二	四七九	一〇七三	一五六四	一一〇七	四九六	一一四四	一三四二	一一一六	一〇三五
	帯広	七三三	一〇八五	九七五	四一八	七八五	一一五三	一一二一	四〇七	一〇七一	一〇六三	一一四四	九七四
	旭川	五七五	一〇五二	一一九五	七四〇	五三七	一一三二	一一六三	九二二	九三四	一〇七六	一一四四	九七三
地方	函館	七〇七	一一〇八	一一八二	六七二	七五八	一一〇八	一一二一	七〇〇	一一〇七	一一〇〇	九五二	一〇四二
	石巻	九七〇	一一八四	一一五一	四八〇	九七三	一〇六二	一四三三	五七三	一〇〇三	八二八	一一二四	一一〇四
	福島	八五八	一一五〇	一一一六	五三六	九二〇	一一九九	一六〇七	六七七	一〇七二	七九八	一一二〇	一一六三
	平均	九一四	一一三三	一一三四	五〇八	九四七	一一三一	一五二三	六二八	一〇三七	八二二	一一三五	一一三六
奥羽	青森	七六一	一〇九六	一一三二	一三三七	六九〇	一三七一	一五八八	一四七九	九〇七	一二五〇	一一九五	一一〇六
	秋田	一一一五	一七一六	一八一二	一三四〇	一一四〇	一七一一	一八七九	一三七七	一〇二二	九九七	一一三七	一一〇二
	山形	七三九	一一三二	一一一四	九一八	七七五	九二八	一三〇三	一〇六三	一〇四九	六九九	一一七〇	一一五八
	平均	八七二	一一三〇	一一一八	一一九八	八六八	一一三七	一五九〇	一一〇六	九九五	九六八	一一二一	一一〇九
北東	銚子	一五四一	一一八三	一九〇一	九〇九	一五七二	一一三五〇	一一三三〇	一三〇五	一〇二〇	一〇五二	一一七二	一四三六
	水戸	一三八八	一一四七	一五七二	六〇七	一四九五	一一二二八	一七一	八二四	一〇七七	八三二	一一〇八	一三五七
	宇都宮	一一八三	一一〇一	一五二二	四六七	一四二二	一八六九	一六四六	五六六	一一〇八	八四九	一〇八一	一一一一
	前橋	九〇七	一一〇三	一三二七	三二四	九七八	一六三五	一五〇〇	三六〇	一〇七八	八五九	一一三〇	一一一一
關東	東京	一一三二	一一五二	一七六六	六二二	一四三三	一六一三	二〇八八	七七八	一〇九二	一〇五六	一一八一	一一五三
	横須賀	一六五二	一九〇二	二一九四	七九八	一七八七	一八六八	二四四二	九九九	一〇八一	九八二	一一一三	一一二五
	平均	一一三四	一一七五	一七二四	六二二	一四四八	一五九四	一九三六	八〇五	一〇七五	九二九	一一三〇	一一九六
	北陸	新潟	一〇三〇	一一三五	一八一七	一八一	一〇二九	一一〇七	一一八三	一五九三	九九九	七九四	九九八
金澤		一六〇四	一一八三	二二八四	二七〇一	一四四四	一八一六	二二九四	二五三八	九九〇	九九二	一〇〇五	九九三
平均		一一三七	一一九五	二〇五一	二二五六	一一三七	一一四七	二〇五四	二〇六六	九九九	九〇七	一〇〇一	九九六
山東		甲府	八八三	一一五二	一四〇四	四八六	九〇六	一一五四	一六六〇	五五四	一〇二六	一一〇二	一一八二
	長野	六九一	一一二〇	九一〇	五三八	六四六	一〇六四	一〇三八	五九五	九三五	八七九	一一四一	一一〇五
	平均	一一三七	一一九五	二〇五一	二二五六	一一三七	一一四七	二〇五四	二〇六六	九九九	九〇七	一〇〇一	九九六
	平均	一一三七	一一九五	二〇五一	二二五六	一一三七	一一四七	二〇五四	二〇六六	九九九	九〇七	一〇〇一	九九六

最大日雨量表 (各雨量觀測所中)

自大正七年
至大正十年

地方	地名	年月日	最大雨量
北海道	北見國紋別郡上湧別村生野	八、九、二二	二二二・六
東 北	岩手縣和賀郡岩崎村岩崎新田宇入畑	九、八、九	二五三・八
東 北	秋田縣山本郡柏毛村柏毛宇西鹿瀬内	九、七、六	二五八・五
關 東	栃木縣上都賀郡日光町中宮詞	八、九、一五	四一九・九
北 陸	富山縣西礪波郡太美山村刀利	八、七、六	二六四・八
東 山	山梨縣南都留郡志村竹之本	九、八、四	三五八・〇
東 海	靜岡縣安倍郡井川村井川	九、八、四	三二五・〇
山 陰	鳥取縣東伯郡矢送村那家	七、九、一四	三八四・〇
内 海	奈良縣吉野郡川上村八之岐	八、九、一三	三九〇・〇
南 海	奈良縣吉野郡津川村小坪瀬字橋詰	八、八、一四	七〇二・九
北 州	大分縣速見郡北由布村川北字乙丸	七、七、一一	三五四・五
南 州	宮崎縣東諸縣郡高岡村高岡	八、八、二五	三九三・六

第三節 蒸發量及氣溫

(本項ハ中央氣象臺ノ調査資料ニ依ル所多シ)

一 蒸發量 大氣中ノ水蒸氣カ雨滴トナリテ地上ニ降下スレハ懸テハ流レテ河川ニ現ハルレトモ其ノ雨水カ地表ニ在ル間ハ常ニ蒸發ヲ伴フモノニシテ蒸發量ハ水源ノ水量ヲ減損セシムルモノノ内最大ナルモノナリ。本邦ニ於

ケル蒸發量ノ調査ハ雨量ノ如ク完全ナラスト雖既往ノ調査ニ徴スルニ其ノ年總量頗ル多ク殊ニ夏季ノ如ク氣溫昇騰シ且風アル場合ニ於テハ其ノ量最大ナリ。即チ蒸發量ノ多寡ハ一ニ氣溫及風ノ有無ニ依ル場合多ク從ツテ蒸發量ノ調査ヲ行フトキハ氣溫及風ノ如何ニ就テモ相當ノ考慮ヲ要スルモノナルヲ以テ本省ニ於テハ本章第一節ニ述ヘタル如ク是等ニ就テモ亦概略ノ調査ヲ行ヒタリ。然レトモ風力ノ調査ニ就テハ精密ナル器械ヲ用キス專ラ目測ニ依リテ極メテ概略ナル狀況ヲ觀測シタルニ止マルヲ以テ茲ニ之カ統計的數值ヲ舉ケル程度ニ至ラス。氣溫ハ寒暖計ニ依リ最高、最低ノ溫度ヲ調査セルカ尙各府縣測候所其ノ他ノ設置ニ係ルモノヲ利用シテ資料ノ蒐集ニ努力シタル結果略其ノ概況ヲ窺フニ足ルモノアリ。是等ノ蒸發量並氣溫ノ稍詳細ナル數值ハ舉ケテ第五卷ニ示セリ

本省調査ノ期間ハ大凡四箇年ニシテ而モ本省設置ノ觀測所ニ於テハ場所ニ依リテハ種々ナル事情ノタメ觀測ヲ中止シ或ハ後年ニ至リテ之ヲ開始セルモノアルヲ以テ觀測期間ノ著シク短キモノアレトモ本調査ニ於テ蒐集シタル月蒸發量ノ平均値ヲ示セハ左表ノ如ク更ニ之ヲ圖ニ示セハ卷末第九圖ノ如シ

地方別月平均蒸發量

自大正七年
至大正十年

地方	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	全年
北海道	一八八	二二七	三一・一	四五八	八〇・六	九八九	八〇九	六三〇	四三四	三七九	一七二	一四〇	五五九〇
東 北	二七三	三〇三	四八五	六三八	六八八	七二一	八〇六	七七五	四一六	三三九	二七一	二四七	五七二〇
東 北	五九	一〇二	二五五	五三六	六九八	八四七	七六八	九三〇	四〇七	二六六	一一一	八五	五〇六六
關 東	三六七	三七三	五二一	六八二	六二〇	五二七	六九二	六六八	四三三	三五九	三四四	三二七	六一九一
北 陸	四九	八五	二二四	五二一	七〇二	六〇九	八六七	九七八	四五四	二六九	一四二	六五	五二〇二
東 山	二二六	二二一	三六四	六三〇	七七七	六一九	七〇三	七一三	四四六	四四〇	二四四	二一五	五七二九
東 海	四一〇	三七九	五六七	七五〇	九一三	六〇六	八〇六	七六四	五三四	五六九	三二二	三三五	六六三三
山 陰	六九	一一一	一四八	四八二	七〇〇	四三七	八二一	八九七	四九九	四二〇	二〇八	九四	四九一四
内 海	九五	八四	二〇四	四九三	六五七	三五八	六一六	六一六	三六三	三二四	一六八	一一四	三九四二
南 海	二七三	二八三	三八五	五五三	七三四	三八六	五一〇	六八八	四三九	五七二	三四九	三〇六	五三六五
北 州	二〇四	二二三	三六八	五六一	八〇五	二六六	五〇八	五九七	四七八	五〇六	二四三	二三七	五〇五五
南 州	二五九	二六一	三八九	四九七	七八五	二一九	四三五	六四一	四七五	五七九	二九八	二七〇	五〇八二
全 國	二〇六	二三三	三五二	五六七	七四〇	五四九	六九五	七四一	四四七	四一九	二四〇	二〇三	五三七四

上記ノ蒸發量ハ他官署ノ調査ニ係ル資料ニ本省設置ノ觀測所ニ於ケル調査資料ヲ加ヘテ統計ヲ行ヒタルモノナリ。而シテ何レモ地表ニ於ケル蒸發量ニシテ樹葉水面其ノ他ヨリノ蒸發量ニアラサルヲ以テ最精確ナル蒸發量トイフヘカラサルモノ之ニ依リテ蒸發ニ關スル一般ノ狀況ヲ推測スルコトヲ得ヘシ

冬季ハ氣溫降下ノタメ蒸發量少ク夏季ハ之ニ反シテ多大ナルヘキハ勿論ニシテ前表ニ依リ全國平均ヲ見ルニ月蒸發量ノ最小ナルハ十二月、一月ノ候其ノ最大ナルハ七八月ノ頃ニシテ其ノ差五〇耗ヲ算シ、冬季ハ夏季ノ約三分ノ一ナリ。然レトモ各地方ニ就テ之ヲ見ルニ必スシモ七八月頃ニ最大蒸發量ヲ示サス却テ四、五月ノ候ニ最多ナル地

方アリ是等ハ其ノ季節ニ於テ多風ナル天候多キニ起因ス
 ルモノナルヘシ。又東北奥羽以北ヲ除ケハ夏季六月ニ於
 テハ一般ニ其ノ前後ノ月ヨリ蒸發量ヲ減少スルノ傾向ヲ
 有ス之レ梅雨期ニ於ケル曇天細雨ノ持續頗ル長キニ依ル
 モノナルヘシ

次ニ各地ノ年總量ヲ比較スルニ其ノ最大ナルハ東海道
 地方ノ六六〇耗其ノ最小ナルハ内海地方ノ約四〇〇耗ニ
 雨量蒸發量比較表

地方	平均年雨量	平均蒸發量 (大正七年)	前二一者 ノ比(%)
北海道	一、〇二六・〇	五五九・〇	五四・五
東北	一、二一四・八	五七二・〇	四七・二
關東	一、四七六・五	五〇六・六	三四・五
北陸	一、六二六・〇	六一九・一	三八・〇
東山	一、一七三・六	五二〇・二	二二・三
東海	一、五四四・〇	五七二・九	三七・一
山陰	一、九〇〇・二	六六三・三	三四・九
内海	一、六〇二・九	四九二・四	三〇・七
南海	一、四六四・五	三九四・二	二六・九
九州	二、七〇八・六	五三六・五	一九・九
北九州	一、七八五・五	五〇五・五	二八・三
南九州	二、三八九・八	五〇八・二	二一・三
全國	一、六一八・一	五三七・四	三三・三

シテ其ノ較差二六〇餘耗ヲ示シ雨量ノ如ク甚シキ變化ヲ
 示サス、而シテ蒸發量ハ一般ニ本邦南岸地方ニ於テ多量ニ
 シテ北方ニ於テ少量ナリ
 更ニ蒸發量ハ水源地ニ於ケル減損水量中比較的大ナル
 値ヲ示スカ故ニ試ニ前掲ノ數值ヲ平均年雨量ニ比スレハ
 上表ニ見ルカ如ク其ノ全國平均ニ於テ蒸發量ハ年雨量ノ
 約三割三分ニ相當スルカ如シ、而シテ一般ニ蒸發量ハ地方
 的變化ヲ示スコト少キモノナレトモ之ヲ地方的差違ノ比
 較的大ナル雨量ニ比スレハ其ノ比率ニ於テ多少ノ相異ヲ
 生ス、即チ其ノ最大ナルハ雨量ノ稀少ナル北海道地方ノ五
 割餘ニシテ最小ナルハ雨量ノ最大ナル南海地方ニ於ケル
 約二割ナリ

二、氣溫 本省ノ調査ハ其ノ期間比較的短キヲ以テ先ツ
 各測候所ノ觀測ニ成ル年平均氣溫ヲ以テ其ノ概況ヲ示セ
 ハ左表ノ如ク年平均氣溫ノ最高ナルハ九州南部、最低ナル
 ハ北海道地方ニシテ各地ノ最高、最低溫度モ亦同様ノ變化
 ヲ示ス。斯ノ如ク氣溫ハ緯度ノ北スルニ伴ヒ漸次ニ減少
 スルモノナルハ更ニ説明ヲ要セサル所ニシテ本邦南北兩
 端ニ於ケル年平均氣溫ノ差ハ一〇度以上ニ達シ各地ニ於
 ケル最高、最低ノ較差ハ一四度乃至三六度ヲ示ス。而シテ

各地年平均氣溫ノ最高及最低 (攝氏度) 中央氣象臺ノ調査資料ニ依ル (大正十年迄)

地方	地名	年平均氣溫	年平均氣溫ノ最高及最低		較差	對平均氣溫ノ百分率	觀測期間
			最高	最低			
北海道	網走	五六	六八	四一	二七	四八二	三十二箇年
	釧路	四七	六一	三一	三二	六八一	三十箇年
	帯広	四八	六一	三四	二七	五六三	三十箇年
	旭川	五二	六四	四一	二二	四四二	三十三箇年
	札幌	六九	八四	五七	二七	三九二	四十四箇年
東北	石巻	一〇九	一二五	九九	二六	二九九	三十四箇年
	福島	一一八	一二九	一〇	一九	一六一	三十一箇年
奥羽	青森	九二	一〇四	七九	二五	二七二	三十八箇年
	秋田	一〇三	一一七	九四	二三	二二三	三十九箇年
	山形	一〇七	一二七	九九	一八	一六八	三十二箇年
關東	銚子	一四七	一六六	一三七	二九	一九七	三十五箇年
	水戸	一二六	一三五	一〇九	二六	二〇六	二十二箇年
	宇都宮	一二三	一三二	一一四	一八	一四六	三十箇年
	前橋	一三〇	一三九	一二四	一五	一一五	二十二箇年
	東京	一三八	一五〇	一二八	二二	一五九	四十六箇年
東	横須賀	一四五	一五四	一三九	一五	一〇三	二十八箇年
	大正三年	大正三年	大正三年	大正三年	大正三年	大正三年	大正三年

地方	地名	年平均氣溫	年平均氣溫ノ最高及最低		較差	對去年平均氣溫ノ百分率	觀測期間
			最高	最低			
北陸	新 潟	一三・一	一四・〇	一二・〇	二・〇	一一・三	四十箇年
	金 澤	一三・一	一四・〇	一二・〇	二・〇	一一・三	四十箇年
東 山	甲 府	一三・四	一四・五	一二・五	二・〇	一一・九	二十七箇年
	長 野	一三・〇	一四・二	一二・一	二・一	一一・〇	三十三箇年
	松 本	一〇・二	一四・七	九・三	五・四	一一・六	二十二箇年
	飯 田	一一・八	一四・七	九・三	五・四	一一・六	二十二箇年
	高 山	一〇・〇	一四・七	九・三	五・四	一一・六	二十二箇年
東 海	沼 津	一五・二	一六・二	一四・一	二・一	一一・八	三十九箇年
	濱 松	一五・一	一六・三	一四・一	二・二	一一・九	三十九箇年
	名 古 屋	一四・五	一五・三	一三・九	一・四	一一・七	三十一箇年
山 陰	津 田	一四・五	一五・五	一四・〇	一・五	一一・三	三十一箇年
	濱 田	一四・五	一五・五	一四・〇	一・五	一一・三	二十九箇年
内 陸	彦 根	一三・六	一四・五	一二・〇	二・五	一一・〇	二十八箇年
	京 都	一三・七	一五・二	一二・九	二・三	一一・八	四十一箇年
	和 歌 山	一五・三	一六・三	一四・二	二・一	一一・七	四十二箇年
	大 阪	一四・九	一六・一	一三・五	二・六	一一・五	三十九箇年
	同 山	一四・五	一五・四	一四・〇	一・四	一一・七	三十一箇年

海	北	南 海	北 九 州	南 九 州
廣 島	松 山	高 知	大 分 福 岡 佐 賀 熊 本	宮 崎 鹿 兒 島
一四・六	一四・八	一五・六	一五・一 一四・九 一五・九 一五・七 一五・四 一五・五	一六・六 一六・七
明治二十三年	大正五年	明治二十三年	明治二十七年 明治二十三年 明治二十七年 明治二十三年 明治二十七年 明治二十七年 明治二十七年 明治二十七年 明治二十七年	明治二十三年
一五・七	一五・七	一六・七	一六・二 一五・八 一六・七 一七・一 一六・三 一六・五	一七・八 一七・九
明治十七年	大正六年	大正六年	大正六年 大正六年 明治三十四年 大正六年 大正六年 大正六年 大正六年 大正六年 大正六年	明治十七年
一三・六	一四・二	一四・六	一四・二 一四・二 一四・二 一五・二 一四・七 一四・七 一四・七 一四・六 一四・七	一五・五 一五・五
二・一	一・五	二・一	二・〇 一・六 一・五 二・四 一・七 一・八	二・三 二・四
一四・五	一〇・一	一三五	一三二 一〇七 九四 一五三 一一〇 一一六	一三九 一四四
四十箇年	二十九箇年	三十九箇年	三十四箇年 三十一箇年 二十六箇年 四十二箇年 三十一箇年 二十八箇年	三十八箇年 三十九箇年

各地平均氣溫比較表

地方	地名	年平均氣溫	本省調査期間ノ年平均氣溫	前二者ノ比(%)
北 海	網 走	五六	六一	一〇九・〇
	釧 路	四七	五七	一二一・三
	帯 廣	四八	五七	一一八・七
	旭 川	五二	五八	一一一・五
	札 幌	六九	七四	一〇七・三

年平均氣溫ノ最高ナリシハ明治二十三年ニシテ近クハ大正三年及同五年ニ於テ高ク、其ノ最低ハ明治十七年同三十八年同三十九年同四十年同四十二年及大正六年ニ起リタル地方多シ

本省調査期間内ノ年平均氣溫ヲ前表ニ於ケル平均氣溫ニ比スレハ次表ニ示スカ如ク一般ニ多少ノ高温ヲ示ス、而シテ其ノ比ノ最大ナルハ釧路ノ一一一・五ニシテ最小ナルハ大分及熊本ノ九七・四バ―せんとなリ。更

地方	道	北東	奥羽	關東	北陸	地方
地名	函館	石巻	青森	宇都宮	新潟	地名
年平均氣溫	五・九	一〇・九	九・二	一三・八	一三・六	年平均氣溫
本省調査期間ノ年平均氣溫	六・六	一〇・八	九・八	一三・九	一三・七	本省調査期間ノ年平均氣溫
前二者ノ比(%)	一一・九	九九・一	一〇六・五	一〇〇・七	一〇〇・八	前二者ノ比(%)

地方	東海	山陰	内海	南海	北九	地方
地名	沼津	濱田	京都	高知	佐賀	地名
年平均氣溫	一五・二	一四・五	一三・六	一五・六	一五・四	年平均氣溫
本省調査期間ノ年平均氣溫	一五・〇	一四・八	一三・九	一五・四	一五・四	本省調査期間ノ年平均氣溫
前二者ノ比(%)	一〇二・〇	一〇二・〇	一〇一・五	九九・四	一〇〇・〇	前二者ノ比(%)

東	山
長野	岐阜
一〇・〇	一〇・〇
一〇・八	九・八
九八・二	九八・〇

全	九州	南九州	州
平均	鹿兒島	宮崎	熊本
一三・一	一六・七	一六・六	一五・四
一三・二	一六・五	一六・四	一五・二
一〇〇・八	九八・八	九八・八	九七・四

ニ之ヲ各地方ニ就テ見ルニ北海道ニ於テ最上昇シ其ノ比
一一一ぱーせんとな示シ東北奥羽地方ニ於テハ一〇〇ぱ
ーせんとな越ユルコト多カラス。關東北陸、東山、東海及内
海地方ニ於テハ概ネ一〇〇ぱーせんとな示シ殆ト其ノ差
違ヲ認メサルモ山陰、南海及九州地方ニ於テハ稍低下シテ
何レモ一〇〇ぱーせんとな以内ナリ

示スカ如ク最高溫度ハ三八度ヲ超ヘタル所少カラス、最低
溫度ニアリテハ全國ヲ通シテ零點以下ニ降ラサルモノナ
ク其ノ低極ハ零點以下四〇度ナルモノアリ。而シテ最高
最低ノ較差ノ最大ナルハ北海道旭川ニシテ七〇度以上ヲ
算シ其ノ最小ナルハ銚子、横須賀、濱松、濱田、和歌山其ノ他九
州西南海岸地方ニシテ何レモ四〇度ヲ超ユルコト多カラ
サルナリ

氣溫ノ最高極及最低極

中央氣象臺ノ調査資料ニ依ル

△ハ零點以下トス

地方	地名	觀測開始以來			本省調査期間			較差
		年月日	最高	最低	年月日	最高	最低	
北海	帯路	明治三三・八・二	三五・八	△二九・二	明治三三・八・三	三二・八	△三三・一	五五・九
道海	帯路	明治三五・八・六	二七・六	△二六・八	明治三七・七・二六	二七・三	△三四・八	五二・一
道海	帯路	明治二七・八・七	三六・〇	△三八・二	明治二七・八・三	三三・四	△三三・三	六五・七

地方地名	觀測開始以來			本省調査期間		
	年月日	最高	最低	年月日	最高	最低
旭川	大正 九、七、二五	三五〇	△四一〇	大正 九、七、二五	三五〇	△三六四
札幌	大正 一六、八、一五	三四一	△二五・六	大正 八、七、二五	三三三・二	△二三・五
函館	大正 三、七、八、二〇	三三五	△二一・七	大正 七、八、一、二	三三三	△二七・五
石巻	大正 二、七、八、三	三四八	△一四・六	大正 七、八、一、五	三三二・六	△一四・六
福島	大正 七、七、二六	三七一	△二八・五	大正 七、七、二六	三七一	△二二・二
青森	大正 四、八、六	三六〇	△一九〇	大正 八、一、六	三三二・六	△一四・六
秋田	大正 三、三、八、二五	三五六	△三四・六	大正 九、八、一、三	三四六	△一六・二
山形	大正 七、七、二六	三七九	△二〇・〇	大正 八、二、一	三七九	△二八・八
銚子	大正 一、九、二	三三五	△七・三	大正 七、八、二、九	三一〇	△三・六
水戸	大正 四、七、二九	三四七	△二一・七	大正 七、八、一、八	三四四	△二〇・一
宇都宮	大正 六、七、二五	三四七	△二一・七	大正 七、一、九	三四四	△二〇・一
前橋	大正 六、七、二五	三四七	△二一・七	大正 七、一、九	三四四	△二〇・一
東京	大正 三、七、三	三三八	△四八	大正 七、七、二	三五四	△一七・七
横須賀	大正 一、九、二	三五五	△六七	大正 七、七、二、九	三三七	△四二
關東	大正 一、九、二	三五五	△六七	大正 七、七、二、九	三三七	△四二
北陸	大正 四、二、八、六	三九一	△九七	大正 九、七、二、五	三八五	△七三
新潟	大正 三、五、九、八	三八五	△九七	大正 九、七、二、四	三五・一	△六四
金澤	大正 三、五、九、八	三八五	△九七	大正 九、七、二、四	三五・一	△六四
甲府	大正 三、七、三、一	三七七	△一五六	大正 七、七、二	三六六	△一九五
長野	大正 七、七、二六	三七五	△一六四	大正 七、七、二、六	三七五	△一六二
松本	大正 九、七、二〇	三四〇	△三二・九	大正 一〇、八、一、一	三四二	△二〇・一
東海	大正 九、七、二〇	三四〇	△三二・九	大正 一〇、八、一、一	三四二	△二〇・一

地方地名	觀測開始以來			本省調査期間		
	年月日	最高	最低	年月日	最高	最低
飯田	大正 四、七、一、九	三六二	△一五・九	大正 九、二、二、二	三五七	△一四・一
高山	大正 一〇、八、一、〇	三五五	△三三・五	大正 七、一、一、一	三五五	△三三・五
岐阜	大正 二、六、七、二五	三八二	△一〇・六	大正 七、七、二、九	三四七	△七七
津島	大正 一、九、二	三六六	△八・一	大正 七、八、一、四	三五〇	△六七
沼津	大正 二、七、七、一、九	三七二	△五・五	大正 八、八、一、〇	三三一	△三七
濱松	大正 四、二、七、一、八	三六八	△九・五	大正 一〇、八、二、一	三五六	△六・八
名古屋	大正 六、七、二、四	三六九	△七八	大正 七、七、三、一	三五六	△六・八
東海	大正 六、七、二、四	三六九	△七八	大正 七、七、三、一	三五六	△六・八
山陰	大正 三、七、二、三	三五三	△一一・三	大正 一〇、八、一、〇	三四四	△六八
彦根	大正 四、二、八、四	三七二	△二一・九	大正 一〇、八、二、六	三六四	△七三
京都	大正 二、六、七、二、五	三七二	△二一・九	大正 一〇、八、二、六	三六四	△七三
和歌山	大正 四、二、八、四	三七二	△二一・九	大正 一〇、八、二、六	三六四	△七三
大阪	大正 二、六、七、二、一	三六三	△四・九	大正 一〇、八、一、八	三六一	△四四
大坂	大正 四、二、八、四	三七六	△七・一	大正 一〇、八、二、六	三五〇	△四四
岡山	大正 七、八、四	三六五	△八一	大正 七、八、一、四	三五五	△四三・一
廣島	大正 三、八、一、二	三七八	△八六	大正 一〇、八、一、七	三七一	△六一
松山	大正 四、八、二	三七〇	△八三	大正 一〇、八、一、五	三五二	△六六
南海	大正 三、七、一、九	三七一	△七〇	大正 七、八、三、〇	三九九	△六八
高知	大正 三、七、一、九	三七一	△七〇	大正 七、八、三、〇	三九九	△六八
北海	大正 二、七、八、一、一	三六〇	△七八	大正 一〇、八、一、〇	三三四	△七八
福井	大正 三、〇、八、八	三六二	△八二	大正 九、八、一、二	三五三	△八二
佐賀	大正 三、七、二、五	三六二	△八二	大正 九、八、一、二	三五三	△八二
佐世	大正 三、七、二、五	三六二	△八二	大正 九、八、一、二	三五三	△八二
長崎	大正 二、七、八、九	三六七	△五六	大正 九、八、一、四	三四六	△四七
佐賀	大正 六、七、三、〇	三六八	△六五	大正 一〇、八、一、九	三四三	△四〇
九州	大正 六、七、三、〇	三六八	△六五	大正 一〇、八、一、九	三四三	△四〇

